

平成 16 年度第 1 回  
 広島市公共事業（建設関係局所管）再評価に係る対応方針（案）

| 事業種別 | 事業名                       | 対応方針（案） |       | 対応方針（案）の理由及び今後の方針  |
|------|---------------------------|---------|-------|--|
|      |                           | 継続      | 休止・中止 |  |
| 街路事業 | 吉島観音線外 1<br>〔吉島観音線・駅前観音線〕 |         |       | <p>本路線は、広島市のデルタ市街地において、天満川により分断されている中区舟入地区と西区観音地区を連絡し、デルタ部内における道路ネットワークの強化や沿道の良好な市街地形成を図るとともに、緊急時の避難路として機能するなど、整備効果が極めて高い路線である。</p> <p>現在、天満川を横断する南観音橋を供用するとともに、陸上部も片側歩道の暫定的な横断構成で供用しているが、残りの区間についても歩行者の安全確保や自動車走行性の向上に寄与するものであり、引き続き事業を実施し、今後も早期完成に向け努力していく。</p>                      |
| 街路事業 | 西原山本線( 3 工区 )             |         |       | <p>本路線は、国道 54 号と祇園新道を連絡し、安佐南区西原地区の東西方向の骨格を形成し、西原地区の道路ネットワークの強化、沿道の良好な市街地形成や消防活動困難地区の解消を図るとともに、緊急時の避難路として機能するなど、整備効果が極めて高い路線である。</p> <p>現在、祇園新道側の一部区間を供用しているが、残りの区間についても道路ネットワークの強化等が図れるものであり、引き続き事業を実施し、今後も早期完成に向け努力していく。</p>  |
| 街路事業 | 段原蟹屋線外 1<br>〔段原蟹屋線・駅前大州線〕 |         |       | <p>本路線は、広島市のデルタ市街地東部地区において、猿猴川により分断されている南区段原地区と南区西蟹屋地区を連絡し、デルタ市街地東部地区や段原東部土地区画整理事業が実施されている段原東部地区における道路ネットワークの強化や沿道の良好な市街地形成を図るとともに、緊急時の避難路として機能するなど、整備効果が極めて高い路線である。</p> <p>現在、猿猴川を横断する平和橋を含めた段原蟹屋線の区間を供用しているが、残りの区間についても歩行者の安全確保や自動車走行性の向上に寄与するものであり、引き続き事業を実施し、今後も早期完成に向け努力していく。</p> |

| 事業種別 | 事業名                      | 対応方針<br>(案) |           | 対応方針(案)の理由及び今後の方針   |
|------|--------------------------|-------------|-----------|---|
|      |                          | 継続          | 休止・<br>中止 |   |
| 道路事業 | 一般県道<br>勝木安古市線<br>(勝木工区) |             |           | <p>本路線は、安佐北区可部町勝木地区と安佐南区上安地区を結ぶ一般県道であり、中国自動車道広島北ICにアクセスする国道191号と、アストラムライン上安駅、上安バスタ・ミナル付近の広島豊平線を南北に連絡する道路である。</p> <p>本路線のうち、太田川に架かる共栄橋から終点上安地区に至る区間は、概ね2車線で改良済みであるものの、共栄橋から国道191号の間(当該事業区間)は、幅員3.5~4.5mと狭隘で、地域への緊急車両の進入及び車両の離合も困難なため、地域の安全と円滑な交通の確保に支障をきたしている状況である。</p> <p>このため、当該事業区間について昭和60年度から拡幅改良整備を行っており、現在、全体延長2.5kmのうち1.6kmが完成供用済み(進捗率約84.3%)で、JR可部線との交差・近接区間0.9kmを残すのみとなっており、地域住民からも早期完成の要望が多く寄せられている。</p> <p>また、現在JR可部線の廃止に伴い、廃線敷の利活用計画を策定中であるが、当該区間を道路として活用すれば、経済的で安全な道路構造となることから、その方向での検討を進めている。</p> <p>今後、緊急車両の進入及び車両の離合も困難な状況を解消し、円滑な交通の確保を図るとともに、地域の安全性向上に寄与し、沿道地域から国道191号や安古市方面へのアクセス時間の短縮による利便性を向上させるため、JR可部線の廃線敷の利活用方針が決定され次第、残る区間についても、速やかに事業を再開し、早期完成が図れるよう努力していく。</p> |